

令和 7 年度

広島市平和推進基本条例第 8 条に基づく
平和の推進に関する施策の実施状況報告

令和 8 年 9 月
広島市

世界平和の推進

項 目	説 明
核兵器廃絶を目指した 取組の推進 (第7条第1号関係)	<p>1 核兵器廃絶に向けた国内外の世論の醸成【市民局】(14,106千円)</p> <p>(1) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催(5,776千円) オーストラリア・パース市及び米国・ホノルル市において、長崎市と共同で原爆・平和展を開催した。 〔オーストラリア・パース市〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年5月10日～令和7年6月21日 ・ 場 所：ホームズ・ア・コート・ギャラリー ・ 入場者：約3,160人 <p>〔米国・ホノルル市〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月12日～令和8年2月28日 ・ 場 所：戦艦ミズーリ記念館 ・ 入場者：約228,940人 <p>(2) 大阪・関西万博に合わせたヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催(1,112千円) 大阪・関西万博博覧会の開催期間中に、大阪市内において、長崎市と共同で原爆・平和展を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月22日～令和7年12月27日 ・ 場 所：ピースおおさか(公益財団法人大阪国際平和センター) ・ 入場者：約33,600人 <p>(3) 国連大学でのヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展の開催(489千円) 国連大学において、長崎市と共同で「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年7月11日～令和7年8月17日 ・ 場 所：国際連合大学2階マルチパーパススペース ・ 入場者：約1,200人 ・ 主 催：国際連合大学、広島市、長崎市 <p>(4) 国内原爆・平和展の開催(4,549千円) 原爆・平和展を以下の2都市で開催した。 〔東京都杉並区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月2日～令和7年8月15日 ・ 場 所：杉並区役所1階ロビー及び2階区民ギャラリー ・ 入場者：4,487人 <p>〔石川県金沢市〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月7日～令和7年8月15日 ・ 場 所：金沢駅東もてなしドーム地下広場 ・ 入場者：2,526人 <p>(5) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム(57千円) 国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。令和7年度は、県立広島大学の講座を新たに認定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認定大学数：国内55大学、国外25大学(令和7年度末時点) ・ 支援内容：教材の提供、広島で現地学習を行う際のプログラムの調整等

項 目	説 明
	<p>(6) 国内ジャーナリスト研修 (1,008 千円) 国内の若手ジャーナリストを対象に、被爆の実相や「ヒロシマの心」について総合的・体系的に学ぶ研修プログラムを開設し、研修の成果を報道や論説活動を通して広く国内外に発信してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年7月28日～令和7年8月7日 ・ 参加者：15人 <p>(7) 原爆写真展用資料の普及・活用 (1,115 千円) 原爆展を開催する国内外の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行った。 [貸出点数] <ul style="list-style-type: none"> ・ DVD等映像資料、ポスター等：318点 </p> <p>2 平和首長会議の充実強化【市民局】(48,710 千円)</p> <p>(1) 平和首長会議の活動展開 (37,048 千円) 平和首長会議加盟都市の市民、NGO等と連携して世界恒久平和の実現を目指すため、平和首長会議行動計画に基づき、世界的な活動展開を図った。 [実施内容] <ul style="list-style-type: none"> ・ 第11回NPT再検討会議第3回準備委員会への出席 ・ 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開 ・ 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布 ・ こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテストの実施 ・ アジア地域における加盟都市及び国連関係機関等との協議 等 </p> <p>(2) 第11回平和首長会議総会への参加 (5,222 千円) 被爆80周年となる令和7年8月に長崎市で第11回平和首長会議総会を開催し、会長都市として出席した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月7日～令和7年8月10日 ・ 場 所：長崎県長崎市 </p> <p>(3) 平和首長会議インターンシップ (2,897 千円) 平和首長会議の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図った。 また、国内加盟都市の職員を対象にオンライン研修を開催し、各都市における活動の活性化を図った。 [海外加盟都市インターンシップ] <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年11月12日～令和7年11月26日 ・ 参加者：1人 [国内加盟都市インターンシップ] <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和8年2月4日～令和8年2月6日 ・ 参加者：15人 [国内加盟都市職員を対象としたオンライン研修] <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日：令和7年10月17日 ・ 参加者：126人 </p>

項 目	説 明
	<p>(4) 世界平和都市連帯の呼びかけその他 (3,543 千円) 平和首長会議への加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。 〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未加盟都市への加盟要請 ・ 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの発信 ・ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付 ・ メールマガジンの発行 ・ 平和首長会議サポーター制度の運用 等 <p>3 核軍縮・不拡散に関する国際会議等の誘致【市民局】(77 千円) 国(外務省)に出向き、核軍縮・不拡散等に関する様々な国際会議の広島開催や、世界の政治指導者等の広島・長崎訪問の働きかけを要請した。</p> <p>4 平和宣言の作成・発信【市民局】(1,837 千円) 平和宣言を作成し、広く国内外に発信した。 〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネル(和文、英文)の作成、掲示 ・ 読み上げ動画(日本語、英語)の作成及びホームページでの発信 ・ 外国語 8 か国語(スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語)への翻訳とホームページへの掲載 ・ 平和宣言文の作成、配布及び送付(和文:1 万 2,000 部、英文:1 万 3,000 部、点字:250 部等) <p>5 第 63 回パグウォッシュ会議世界大会の開催支援【市民局】(10,000 千円) 世界の科学者が集い、核兵器廃絶を始めとする科学と社会の諸問題について議論する「パグウォッシュ会議」の広島開催を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間:令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 1 月 5 日 ・ 場 所:広島国際会議場 ・ 参加者:330 人 <p>6 広島プレスツアーの実施【市民局】(3,800 千円) 核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図るため、在日外国メディアを対象に、平和記念資料館の視察や被爆者へのインタビューなど、被爆の実相や原爆投下から 80 年経った現状を取材するプレスツアーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間:令和 7 年 7 月 8 日～令和 7 年 7 月 9 日 ・ 場 所:平和記念資料館等 ・ 参加者:10 人 <p>7 国際平和シンポジウムの開催【市民局】(2,964 千円) 市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信のため、朝日新聞社との共催によりシンポジウムを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 日:令和 7 年 8 月 2 日 ・ 場 所:広島国際会議場 ・ 参加者:約 450 人

項 目	説 明
	<p>8 NPT再検討会議等への高校生派遣事業【市民局】(7,606 千円)</p> <p>第11回NPT再検討会議第3回準備委員会に、高校生を平和首長会議ユースとして派遣し、国連関係者に核兵器禁止条約の早期締結を求める署名を届け、ヒロシマのメッセージを発信するとともに、平和人材としての育成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 派遣期間：令和7年4月27日～令和7年5月3日 ・ 派遣先：米国・ニューヨーク市 ・ 派遣人数：高校生8人 <p>9 青少年国際平和未来会議の開催【こども未来局】(9,248 千円)</p> <p>広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める会議を広島市で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年8月1日～令和7年8月9日（8泊9日） ・ 参加者：53人（15か国17都市）

項 目	説 明
平和意識の醸成 （第7条第2号関係）	<ol style="list-style-type: none"> 1 若者による平和の誓いの集いの開催【市民局】（384 千円） 「ヒロシマの心」を次世代に継承するため、若者が主体となって企画・運営する平和の誓いの集い「Peace Night Hiroshima 2025-繋-」を開催し、若者による平和宣言などを発信した。 ・ 期 日：令和7年11月23日 ・ 場 所：平和記念公園 2 折り鶴に託された思いを昇華させるための取組の推進【市民局】 （2,763 千円） 「原爆の子の像」に国内外から捧げられた折り鶴を、折り鶴再生製品の作成等に取り組む市民団体等に配付し昇華の取組を推進した。 ・ 配付団体：27団体 ・ 受入数量：約12.8トン ・ 使用量：約13.8トン 3 折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業【市民局】（11,200 千円） 平和記念資料館に修学旅行や平和学習で訪れた児童・生徒に対し、平和への思いを見学後も思い出してもらえるよう折り鶴再生製品（付箋）を配付した。 ・ 入館者数（修学旅行等）：32万2,015人 4 平和文化の普及促進【市民局】（2,398 千円） 平和文化月間の認知度の向上と参加者の平和意識の一層の高揚を図るため、STU48を平和文化アンバサダーとして起用するとともに、平和文化の振興に関する冊子の配布等を行った。 5 青少年「平和と交流」支援事業【市民局】（3,587 千円） 平和首長会議の海外加盟都市の青少年に対し、被爆地で被爆の実相についての理解と参加者との交流を深めることを目的として実施している事業への参加を支援した。 ・ 事業名：青少年国際平和未来会議2025ヒロシマ ・ 期 間：令和7年8月1日～令和7年8月9日 ・ 参加者：8人 6 若い世代による被爆地での平和学習に対する支援【市民局】 （22,212 千円） 若い世代を平和記念式典に派遣し、あわせて、「ヒロシマ平和学習受入プログラム」に参加する基礎自治体に対し、国の補助金を活用した財政支援を行った。 ・ 対 象：小・中・高校生を本市に派遣する基礎自治体 ・ 支援自治体数：60自治体 7 被爆樹木の再生利用【市民局】（319 千円） 平和意識の醸成を図るため、被爆の実相を伝える被爆樹木の剪定枝を活用した商品の開発に取り組む団体や企業等に対し、剪定枝を無償配付して再生利用を促した。

項 目	説 明
	<p>8 G 7 広島サミット記念館の運営【企画総務局】(15,055 千円)</p> <p>令和 5 年に開催された G 7 広島サミットを想起する代表的な品々等の展示等を通じて、市民・県民に、歴史的なサミットが広島の地において開催されたことを誇りに感じていただくとともに、若者を始めとする国内外の多くの来訪者に、G 7 各国首脳等の核兵器廃絶への思いを受け止めていただき、改めて平和について考えてもらう契機とするため、各国首脳等が訪れた平和記念公園内に展示施設を設置し、管理運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公 開 期 間：令和 6 年 5 月 1 9 日～令和 1 2 年 1 2 月末 ・ 年間来館者数：2 3 万 1, 9 1 1 人 <p>9 ヒロシマ平和研究教育機構への負担金【企画総務局】(5,246 千円)</p> <p>本市、広島市立大学、広島大学及び広島平和文化センターが連携して平和に関する研究、教育・人材育成、情報発信に取り組むため、4 者の参画により令和 6 年 1 月に設立した一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構の運営に要する経費等を負担した。</p> <p>10 「第 3 回ひろしま国際平和文化祭」の開催準備等【市民局】(44,812 千円)</p> <p>市民や国内外から広島広域都市圏を訪れる人々が、多様で上質な音楽・芸術作品等に触れる機会を拡充し、平和への思いを共有する「平和文化」を振興するとともに、圏内の文化芸術活動の活性化、まちのにぎわいづくりや観光振興等を目的として、第 3 回ひろしま国際平和文化祭を開催するための準備事務と共に、周知のための P R 事業を次のとおり実施した。</p> <p>【主なイベント】</p> <p><音楽部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドラゴンクエストコンサート 期 日：令和 7 年 8 月 1 6 日（土） 来場者：1, 0 8 5 人 <p><メディア芸術部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『花緑青が明ける日に』特別試写会&トーク 期 日：令和 8 年 3 月 1 日（日） 来場者：1 0 0 人 ・ 『ひゃくえむ。』上映&トーク 期 日：令和 8 年 3 月 2 5 日（水） 来場者：3 0 0 人 <p>11 キョウチクトウ及び被爆アオギリ二世苗木育成【都市整備局】(1,090 千円)</p> <p>キョウチクトウ又は被爆アオギリ二世の苗木を修学旅行で広島を訪れた学校等に対し、希望に応じて配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キョウチクトウ : 1 7 本 ・ 被爆アオギリ二世：1 2 3 本

項 目	説 明
	<p>12 平和教育プログラムに基づく平和学習の実施【教育委員会】 (3,716 千円)</p> <p>平成25年度より、児童生徒の発達段階に即した平和教育プログラムによる学習を推進するとともに、地域の被爆体験者を講師として招へいする「被爆体験を聴く会」や、平和記念日に焦点を当て、学校や地域の特色を生かして行う「平和を考える集い」等の開催など被爆体験を原点とする学習を進め、平和教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平和教育プログラム」：全校実施（小・中・高） ・ 「被爆体験を聴く会」実施園・校数：18園（幼）、103校（小）、39校（中）、8校（高） ・ 「平和を考える集い」実施校数：140校（小）、64校（中）※広島中等教育学校を含む。 <p>13 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施【教育委員会】(779 千円)</p> <p>市内の各中学校に代表生徒1人を選出するよう働きかけ、68人をメッセージ発信者（メッセンジャー）として選出し、本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生自らが考えた英語による平和のメッセージを伝える活動を通して、中学生の平和への意識の高揚や英語力の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加人数：3,131人 ・ メッセンジャー：68人 ・ 研修期間：令和7年6月14日～令和7年8月6日 <p>14 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信【教育委員会】 (1,348 千円)</p> <p>小学校6年生児童を対象とした平和についての意見を発表する「こどもピースサミット」や、アメリカ、オーストラリアにある学校とのやり取り等による交流を行う「平和への誓いアクションプログラム」などを実施し、平和について発信する機会の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こどもピースサミット」参加人数：1万465人 ・ 「平和への誓いアクションプログラム」実施校数：2校（小）、3校（中） <p>15 広島・長崎市児童生徒平和のつどい【こども未来局】(597 千円)</p> <p>両市の児童生徒が、平和学習を通じて平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るつどいを広島市で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期 間：令和7年6月28日～令和7年7月27日 ・ 参 加：広島市児童生徒21人、長崎市児童生徒25人

項 目	説 明
<p>被爆体験の継承・伝承 その他 (第7条第3号及び第4号関係)</p>	<p>1 被爆建物等保存・継承の推進【市民局】(256,567千円)</p> <p>(1) 民有被爆建物等保存・継承事業補助(2,365千円) 被爆樹木の樹勢回復措置に係る費用について補助を行った。 ・ 被爆樹木：安田学園ソメイヨシノほか3件</p> <p>(2) 被爆樹木モニタリング等事業【市民局】(3,503千円) 樹木匠による被爆樹木モニタリング調査を行うとともに、本市所有の被爆樹木について樹勢回復措置を行った。また、民有被爆樹木の所有者に対し診断結果の報告をするともに助言を行った。 〔モニタリング調査〕 ・ 調査対象 54本 ・ 調査結果 良：6本 やや不良：17本 不良：25本 著しく不良：5本 枯死寸前：1本 枯死：0本 〔樹勢回復措置〕 ・ シダレヤナギ(こども文化科学館東側)ほか4本</p> <p>(3) 被爆建物・被爆樹木めぐり【市民局】(34千円) 被爆建物や被爆樹木を講師に解説してもらいながらめぐる見学ツアーを開催した。 〔被爆建物めぐり〕 令和7年11月15日開催 ・ コー ス：旧広島陸軍兵器補給廠、旧広島陸軍被服支廠ほか2か所 ・ 参加人数：14人 〔被爆樹木めぐり〕 令和7年11月1日開催 ・ コー ス：広島城跡ほか6か所 ・ 参加人数：21人</p> <p>(4) 被爆遺構展示館管理運営【市民局】(8,417千円) 被爆遺構のモニタリング及び建屋(保存・展示施設)の維持管理や運営を行った。</p> <p>(5) 広島通信病院旧外来棟管理運営【市民局】(412千円) 被爆建物である広島通信病院旧外来棟の管理及び運営を行った。</p> <p>(6) 平和記念資料館附属展示施設整備【市民局】(240,639千円) 広島通信病院旧外来棟の展示及び施設整備を実施し、新たに平和記念資料館の附属展示施設に位置付けることとしたほか、今後、平和記念資料館の附属展示施設に位置付ける予定の本川小学校平和資料館について、新たに設置するトイレ及びフェンスの実施設計を行った。</p> <p>(7) 「平和の門」等維持管理【市民局】(1,197千円) 「平和の門」及び原爆被災多言語説明板の維持管理を行った。</p> <p>2 旧広島陸軍被服支廠の保存・継承【市民局】(166,435千円) 広島県が実施する安全対策工事に要する経費の一部を負担するとともに、国・広島県・本市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」において活用策の検討を進めた。</p>

項 目	説 明
	<p>3 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化【市民局】(15,291 千円) 平和記念資料館本館の展示資料の入替えを実施したほか、所蔵フィルムのデジタルデータ化を始めとする保存措置を講じた。また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化や多言語化を進め、順次ホームページでの公開や YouTube での配信を行った。</p> <p>4 平和記念資料館の発信力の強化【市民局】(153 千円) 国外に向けて被爆の実相を伝えるため、平和記念資料館のホームページの多言語化を進めた。</p> <p>5 AI・VRを活用した被爆体験の継承【市民局】(72,141 千円) 被爆者の更なる高齢化が進む中、次世代への被爆体験の継承がますます困難な時期に差し掛かっており、今後、確実に到来する「被爆者がいなくなる時代」を見据え、新たな被爆体験継承の手法として、AIやVRなどのデジタル技術を活用し、被爆者の言葉や平和への思いを的確に後世に伝える取組を進めた。</p> <p>6 青少年を中心とする平和文化イベントの開催【市民局】(1,922 千円) 被爆の記憶の風化を防ぐとともに、世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を訴えるため、青少年による平和に関するメッセージを中心とした平和文化イベントを開催した。 ・ 期 日：令和7年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場</p> <p>7 広島平和文化センター事業助成【市民局】(386,859 千円) 公益財団法人広島平和文化センターが実施する事業の運営に必要なシステム経費及び人件費等への助成を行った。</p> <p>8 修学旅行生への被爆体験講話等【市民局】(29,098 千円) 被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオの上映等を行った。 ・ 実施件数：1,744 件 ・ 参加人数：10万6,814 人</p> <p>9 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施【市民局】(7,928 千円) 平和記念資料館において伝承講話を定時開催したほか、市内会場への派遣及びウェブ会議システムを利用した伝承講話を実施した。 ・ 実施件数：2,096 件 ・ 参加人数：6万1,977 人</p> <p>10 被爆体験伝承者等の養成【市民局】(1,497 千円) 被爆体験伝承者としての活動を希望する者(研修生)に対し、進捗状況に応じた研修を実施するなど被爆体験伝承者の養成に取り組むとともに、新たな被爆体験の掘り起こしのため、家族伝承者の養成にも取り組んだ。令和7年度は、被爆体験伝承者26人、家族伝承者9人が研修を修了した。 ・ 研 修 生：被爆体験伝承者209人(令和7年度応募者：64人) 家 族 伝 承 者 56人(令和7年度応募者：18人) ・ 研修期間：2年程度</p>

項 目	説 明
	<p>11 原爆ドーム保存事業等基金への積立て【市民局】(207,169千円) 原爆ドームの保存事業のほか被爆の実相を「守り、広め、伝える」事業の財源とするため、原爆ドーム保存事業寄附金、平和国際交流費寄附金、「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税寄附金、平和記念資料館観覧料改定に係る増収相当額等を基金に積み立てた。</p> <p>12 「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税の推進【市民局】(43千円) 平和の推進を目的として寄附した方に対し「広島平和記念資料館総合図録」、「カープ坊やをデザインした折り鶴再生製品」などを贈呈品とするふるさと納税を推進した。 ・ 申出件数：29件</p> <p>13 平和記念式典の開催【市民局・健康福祉局】(178,362千円) 原爆投下から80年の平和記念日に当たり、遺族・市民及び各界有志参列の下に、原爆死没者の霊を慰めるとともに、世界恒久平和の実現を祈念することを目的として開催した。 また、式典の挙行に適した環境の確保について実効性のある対策の検討を行うに当たり、参列者向けのアンケート調査及び拡声機の音量測定を実施し、その結果を踏まえ、デモ行進の実施団体との協議を通じて、令和8年の式典の挙行に適した環境の確保に向けた合意とその遵守を担保する方策を検討した。 ・ 参列者数：約5万5千人</p> <p>14 平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい【健康福祉局】(11,976千円) 核兵器廃絶と世界恒久平和を願う思いを共有するとともに、在外被爆者の心身の保養を図るため、平和記念式典に在外被爆者及びその遺族を招へいし、国内在住被爆者との交流や健康相談などを実施した。</p> <p>15 原爆被爆者動態調査【健康福祉局】(4,827千円) 原爆による人的被害の実態及び被爆者世帯の被害状況を明らかにするために、本市が保有する被爆者情報に、新たに判明した原爆死没者や被爆者健康手帳交付者情報などを整理・統合化した。</p> <p>16 原爆ドームの保存整備【都市整備局】(96千円) 今後の保存工事に用いる材料や手法の検討を行うため、先進事例調査を実施した。</p> <p>17 本川小学校の平和資料館運営【教育委員会】(4,742千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：3万7,038人</p> <p>18 袋町小学校の平和資料館運営【教育委員会】(4,659千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：3万22人</p>

項 目	説 明
	<p>19 ピースツーリズム推進事業【経済観光局】(7,833 千円) 外国人旅行者等の市内での周遊を促進するため、平和記念公園等を起点とした市内の主要な平和関連施設などを巡るルート等の情報をWEBサイトで発信するプロモーション等を実施した。 また、被爆80周年事業として、ぴーすくるのドレスガードへの広告掲載やモニターツアーの実施、PR動画を活用した発信等を行った。</p> <p>20 比治山公園「平和の丘」に係る取組の推進【企画総務局】(98,319 千円) 既存施設の再整備及び園路沿いの未利用地の整備に向けた実施設計や園路改修工事などを行った。</p> <p>21 広島大学本部跡地の管理【企画総務局】(4,350 千円) 広島大学旧理学部1号館について、機械警備等の管理を行った。</p> <p>22 広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」の整備【企画総務局】(177,569 千円) 広島大学旧理学部1号館を平和に関する研究・教育等の新たな拠点として整備するため、基本設計等に取り組んだ。</p> <p>23 国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業【市民局】(479 千円) 広島復興プロセスに関する教材を印刷・配布し、広島県や広島平和文化センターが主催する研修・講座等で活用した。</p> <p>24 平和記念資料館管理運営及び施設整備【市民局】(489,357 千円) 平和記念資料館の施設の管理運営に加え、被爆の実相・平和に関する資料の収集、保管、展示及び供用、平和学習や被爆体験の継承等平和を考える場の提供等を行ったほか、被爆の実相をより深く理解してもらうために、原爆被災に関する調査・研究やそれに基づく企画展を開催するとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う心をより多くの来館者に届けるため、バスガイド等観光事業従事者のための研修会を開催した。 また、資料館の混雑解消のため、引き続き開館時間を延長するとともに、WEBを活用したチケット購入・予約システム、入館システム及びキャッシュレス決済サービスの運用等、混雑緩和に資する多様な取組を実施した。 加えて、こどもたちの平和学習の効果を高めるため、東館地下1階にこどもたちにも分かりやすい新たな展示や学習スペースの整備内容を検討したほか、来館者が核兵器廃絶の必要性を確信し、日常生活の中で自分ができる具体的な行動につなげていくため、見学動線の最後となる東館1階の「情報コーナー」を、「ヒロシマは訴える」コーナーにリニューアルした。 〔入館者数〕 258万926人 〔ホール利用件数〕 322件 〔企画展〕 ・ 「ユネスコ『世界の記憶』登録候補 広島原爆の視覚的資料－1945年の写真と映像」 期 間：令和7年2月28日～令和7年10月6日 ・ 「新着資料展－令和5年度寄贈資料」 期 間：令和7年10月9日～令和8年2月1日</p>